

日系カナダ人百年祭の意義

三、四世に歴史的展望を



メル・ツジ

永野萬蔵がカナダに歴史的的第一步を記して以来、カナダの日本人達は、偏見と人種差別の荒波を乗り越え、尊敬と正しい評価と立派な業績を得るにいたった。萬蔵が船大工として慎ましいスタートを切った時から日系カナダ人は懸命に働き続け、少数民族としては、カナダの中でも尊重される存在にまでなった。

今日、日系カナダ人は、政治家、外交官、弁護士、教師、ジャーナリストなどから、配管工、守衛、労働者まで、あらゆる階層に及んでおり、世界各国に移住している二百万人近くの日本人中、最高の成功を収めている。

しかし、日本でもほとんど知られていないのと同様に、このことを知っているカナダ人はほんのわずかである。日系カナダ人の秘書は、カナダ中で最も優秀な部類に属するということ、日系人は学校

の成績が非常に優秀であるということ、犯罪記録の中には実質上全く登場しないということ等は知っていても、全体像としてはほとんど知らないも同然である。

多くの日系カナダ人、特に三世や四世の人々は、祖先を同じくする本国の日本人と共通するものをほとんど持つていないにもかかわらず、白人系カナダ人は、意識的でないにしろ、日系カナダ人を「日本人」と誤称している。

移住百年祭の目的の一部は、このような誤った考え方を正しつつ、一九四二年の日系人強制移住によって強いショックを受けて以来、日本的なものとのつながりをほとんど失ってしまっていた日系カナダ人社会を組織化し、まとめることにある。

ほとんどの行事は、比較的最近移住してきた約五千人を含む、約二万人の日系カナダ人が、いまや故郷と呼んでいるトロント周辺で行われる。しかし、日系人が住むその他の都市および州、バンクーバー、グリーンウッド、ケローナ、カムループス、カルガリー、エドモントン、ミルク・リバー、ウイニペグ、ハミルトン、チャタム、モントリオールでも、展示会、ショー、会議、ピクニック、スポーツ大会、そしてもちろん盆踊り等が開催されている。

百年祭は、特に、萬蔵の移住以来、数知れない辛苦に耐えてきた両親や祖父母達の文化的背景をほとんど知らない、三世や四世にとって、重要な行事となる。ここ五年来、三世、四世の活動家達は、日本人であるのか、カナダ人であるのかという重大な問題と懸命に取り組んできた。なぜならば、三世、四世は、自分たちが

経験した試練と苦難を決して忘れない両親たちによって、成功の恩恵と良い境遇を与えられ、その間に、白人中産階級化という自己矛盾の状態に陥ってしまったからである。

若者達が使っている隠語を借りれば、二世の人々は、自らと子供達を「バナナ」にしてしまったのである。すなわち、外側は黄色く、中味は白ということである。この点について、「バナナ」になっってしまった人々自身の間から疑問がわき上り、高まりつつある。

こうした中で、トロントで発行されている日系人向け隔週刊誌「ニュー・カナディアン」(日英両語)の元英文編集長で、現在は全加日系カナダ市民協会百年祭委員会の執行委員長を務めているトヨ・カタ氏は、今こそ、日系カナダ人に歴史的展望を与える時だと感じた。百年祭のアイデアを考え出したのも、萬蔵を歴史のなかから引き出して再認識し、今年五月十四日、カナダ史上の重要人物として評価しようとしているのも、このトヨ・カタ氏である。

タカタ氏によると、学問的には、一八三三年に何人かの日本人漁民が、ブリテイツ・コロンビア州クイーン・シャーロット島に漂着したらしいと推定されているが、実質的には、萬蔵こそ日本からカナダに移住した多くの漁民、農民の先頭を切った人物であると言う。萬蔵は、一八五三年、長崎に生まれ、カナダから再びそこにもどった後、一九二四年、肺病併発症で死亡した。

また日系一世の歴史家、中山訊四郎氏によると、萬蔵はカナダ在住中、今日でも日系カナダ人の特徴とされている勤勉

さを発揮し、二軒のみやげ物店を営んだり、在加邦人相手の食品販売業を営んだり、後には、クロナイクのゴールド・ラッシュと大陸横断鉄道施設工事に乗り、両事業に機材を売り込んだりしたとこのことである。

タカタ氏は「萬蔵は、当然受けるべき評価を受けてこなかった。しかし、萬蔵は、日本人開拓者の草わけてであり、この人物に栄光を与えることにより、カナダへの移民を選んだすべての一世開拓者に栄光を与えることができる。萬蔵の名は、カナダ西部の開拓史にしっかりと刻まれるべきである」との考えをもっている。

永野萬蔵の開拓物語は、百年祭のほんの一部にすぎない。なぜならば、この企画全体そのものが、カナダおよび日系カナダ人の歴史における最も重要な出来事のひとつだからである。

日系カナダ人の文化的運動は、今度の百年祭などをきっかけとして、高まりを見せようとしている。この場合、戦術上重要なことは、三世、四世の大部分に欠けている歴史的展望を強固なものにすることである。トロントの作家、ロン・ポールの言葉を借りれば、「一九四一年、マッケンジー・キング首相が戦時特別措置法を発動し、一九四二年二月二十六日、ブリテイツ・コロンビア州の沿岸地域から、日系カナダ人を完全に疎開させることを命じた後に日系人に加えられた、剥奪、格下げ、泥棒行為を、世代全体が忘失している」からである。

一九七〇年、同じ法令がケベック分離独立運動に適用された時、日系カナダ人は強い衝撃を受け、一九四二年における法令適用は例外でもこじつけでもなく、